

8月号 School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン

Dream通信

2014. 8. No.77



国の歴史と自分の未来を考える ～SAJカンボジア視察ツアー～



初めてのワットプノン散策

皆さん、こんにちは。日本の学校は夏休みに入り、あちこちで子どもたちの元気な声が聞こえる季節になったことと思います。こちらカンボジアでも7月末から夏休みを迎え、園では毎日子どもたちの元気な声が響いています。夏休みでも、子どもたちは毎日、勉強に農作業に取り組んでいます。

今回のDream通信では、7月に行われたSAJカンボジア視察ツアーについて、そして新入園児についての2つをお伝えします。

SAJツアー

夏休みに入り間もなくの7月21日、22日、渡邊代表理事、SAJツアーの皆様がいらっしゃいました。

そして今回のツアーではこれまでと違い、子どもたち全員でカンボジアの首都プノンペンまで出向き、ツアー参加者の皆様と食事会をしました。子どもたちは半年以上も前からこのときを心待ちにしていました。

プノンペンまでは園から片道3時間半かかります。この日は朝6時に園を出発しました。

プノンペンに到着し、まずはプノンペンで最大の仏教寺院、ワットプノンを見学しました。寺院内でお説教を聴いたり、寺院の周りの木陰で休憩をしたりと、穏やかなカンボジアの文化に触れました。

続いては、ポルポト時代に虐殺のあった場所として知られるトゥールスレイン博物館へ行き、中学生以上の子どもたちが見学しました。初めて訪れた中学生の子どもたちは熱心にガイド役の子どもに質問をし、メモを取りながら聞いていました。自分たちの国が最貧国と言われる国になった背景を、当時のまま残る遺物より直に感じ取りました。

イオンモールに到着すると、ツアー参加者のお客様が待っていて、子どもたちを拍手で迎えてくれました。お客様に囲まれながら入ったショッピングモールの中は、子どもたちがこれまでに見たことのないもので溢れていました。迷子にならないよ



トゥールスレイン博物館で歴史を学びました



イオンモールに到着・皆さんに歓迎されました



里親様との食事会

うお互いにしっかり手を繋ぎながらも、目をきらきらさせ夢中になって見て回りました。

イオンモールの中を見学した後は、いよいよ和民で食事です。寿司、焼き肉、焼きそば、他にもたくさんの見たこともない日本料理ばかりでしたが、お客様に食べ方を教えてもらいながら、どれもとてもおいしいと、お腹いっぱいになるまで食べました。

和民の店では、昨年卒園したスレイノイが大学に通いながらアルバイトを始めていました。初めての仕事、初めてのお給料に嬉しいと、明るく楽しそうに話すスレイノイの姿もまた、子どもたちに刺激を与えてくれました。

また、園でひとりの高校3年生であるソペアックは8月に高校卒業試験、9月に大学入試に臨みます。ソペアックはスレイノイと同じプノンペン大学の日本語学科を目指しており、合格への誓いを日本語で発表しました。必ず合格するように食事会に参加した全員から激励を受けました。

楽しかった食事会は16時半にお開きとなり、お客様に見送られながらイオンを後にし、園に戻りました。途中で夕食を取り、園に着いたのは21時半。疲れきった子どもたちは、言葉少なく眠りにつきました。

翌日、今度はツアー参加者様が来園されました。その日は日頃から練習している伝統舞踊と楽器の披露、里親様・代表理事へのプレゼント贈呈、全員での昼食会を行い、今度は子どもたちがお客様をお見送りしました。

2日間を通して子どもたちは、自分たちの国の過去の歴史の上に、他国の人々から支援してもらいながらも、スレイノイのように頑張っている国民がいる現在があることを知り、自分たちもまた国の未来を支える人物になりたいと考えることができました。小学生の子どもたちもそれぞれに「将来自分でお金を稼ぎ、家族を連れて食事に来る」と誓いを立てていました。



誓いを発表するポウ・ソペアック

新入園児

6月4日、新たに仲間がやって来ました。12歳のドウ・ソペアック、今年5年生になる男の子です。

園の近くに父親と一緒に暮らしていましたが、父親の虐待があり、父親に怯え近所の人家に逃げ込む生活をしていました。村の人たちから孤児院に入れてあげられないかと紹介があり、園に来ることになりました。

同学年の子どもたちと一緒に授業を受けていますが、勉強では少し他の子どもたちに遅れをとっています。しかし、授業中も宿題もとても真面目に取り組むことができ、早く追いつけるようにと意欲を見せています。

よく勉強し、よく働き、自分で将来生きていくことができるよう、力強く育ってほしいと思います。



ドウ・ソペアック



ご飯もたくさん食べています